

株式会社大気社

決算説明会資料

2025年3月期(2024年度) 第2四半期(中間期)

2024年11月14日



目次

INDEX

1. 2025年3月期通期受注工事高の予想修正	社長:長田 雅士	P.03
2. 連結業績の概要		P.05
3. セグメント別業績の概要	管理本部長:中島 靖	P.10
4. 連結財務諸表		P.24
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて	経営企画本部長:中川 正徳	P.28
6. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)		P.30
7. 株主還元		P.42
8. Appendix		P.45

社長の長田でございます。

本日は、弊社の決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

私からは、2025年3月期通期受注工事高の予想修正および、上期の市場環境と業績、そして2025年3月期業績の見通しについてご説明します。

目次

INDEX

1. 2025年3月期通期受注工事高の予想修正	社長・長田 雅士	P.03
2. 連結業績の概要		P.05
3. セグメント別業績の概要		P.10
4. 連結財務諸表		P.24
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現 に向けて		P.28
6. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)		P.30
7. 株主還元		P.42
8. Appendix		P.45

塗装システム事業の国内において、当中間連結会計期間における受注実績が想定以上であったことから、2024年5月15日に発表した通期受注工事高の内訳を以下の通り変更いたします。

(億円)	2025年3月期 新予想	2025年3月期 期初予想	差異
	通期	通期	通期
受注工事高合計	2,800	2,800	-
環境システム事業	2,000	2,000	-
塗装システム事業	800	800	-
うち国内	168	118	50
うち海外	632	682	-50

なお、通期の受注工事高の総額および、完成工事高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、2024年5月15日に発表した業績予想からの変更はありません。

まず、2025年3月期通期受注工事高の予想修正についてご説明します。

塗装システム事業の国内において、当中間連結会計期間における受注実績が想定以上であったことから、2024年5月15日に発表した通期受注工事高の内訳を記載の通り変更いたします。

なお、通期の受注工事高の総額および、完成工事高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、2024年5月15日に発表した業績予想からの変更はございません。

目次

INDEX

1. 2025年3月期通期受注工事高の予想修正	P.03
2. 連結業績の概要	社長:長田 雅士 P.05
3. セグメント別業績の概要	P.10
4. 連結財務諸表	P.24
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現 に向けて	P.28
6. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	P.30
7. 株主還元	P.42
8. Appendix	P.45

大型案件剥落により減収減益 受注工事高は増加

市場環境(国内)

半導体関連や自動車メーカーによる投資が継続しており、都市圏における再開発の需要も堅調に推移した。

市場環境(海外)

世界経済の減速懸念はあるものの、各メーカーによる設備投資は堅調に推移した。

受注工事高

1,281億円

〔 前年同期比 +0.8% 〕

完成工事高

1,146億円

〔 前年同期比 -12.1% 〕

経常利益

70億円

〔 前年同期比 -12.6% 〕

親会社株主に帰属する 中間純利益

56億円

〔 前年同期比 -14.4% 〕

次に、当社グループにおける市場環境につきましては、国内市場では半導体関連や自動車メーカーによる投資が継続しており、都市圏における再開発の需要も堅調に推移しました。

海外市場では、世界経済の減速懸念はあるものの、各メーカーによる設備投資は堅調に推移しました。

そのような市場環境のもと、受注工事高は増加したものの、業績面につきましては、前年同期に大型案件があったことにより、減収減益となりました。

全ての項目において、予想を上回る

(億円)	2024年3月期 2Q実績	2025年3月期 2Q実績	前年同期比 増減	2025年3月期 2Q予想	予想比 差異
受注工事高	1,271	1,281	9	1,180※	101
完成工事高	1,304	1,146	-157	1,100	46
経常利益	81	70	-10	49	21
経常利益率	6.2%	6.2%	-0.0pt	4.5%	1.7pt
親会社株主に帰属 する中間純利益	66	56	-9	34	22
当期純利益率	5.1%	4.9%	-0.1pt	3.1%	1.9pt
EPS	199.51円	173.85円	-25.65円	-	-

※ 第1四半期決算時に修正

■ 主要拠点の為替レート

(円)	① 2024年3月期 2Q	② 2025年3月期 2Q	③ 2025年3月期 想定
USDドル	135.99	152.33	147.00
タイバーツ	3.95	4.22	4.03
人民元	19.47	21.07	20.00
インドルピー	1.72	1.82	1.76

■ 為替影響額

- ①と②の為替差による影響
完成工事高:44億円／経常利益:2億円
- ②と③の為替差による影響
完成工事高:21億円／経常利益:1億円

Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

7

このような状況のもと、受注工事高は、第1四半期決算時に修正した予想を上回りました。

また、完成工事高および利益につきましては、10月29日に開示した「業績予想の修正に関するお知らせ」の通り、全ての項目で上期の期初予想を上回りました。

項目別にご説明いたしますと、受注工事高は、想定以上の受注を確保できたことから予想を上回りました。

完成工事高は、海外において、主に前期からの繰越工事の進捗が期初の想定を上回ったことにより予想を上回りました。

利益面につきましては、完成工事高増に加え、工事の採算性が改善したことなどにより、経常利益は予想を上回りました。親会社株主に帰属する中間純利益につきましては、先に述べました要因に加え、投資有価証券売却益等の増加により予想を上回りました。

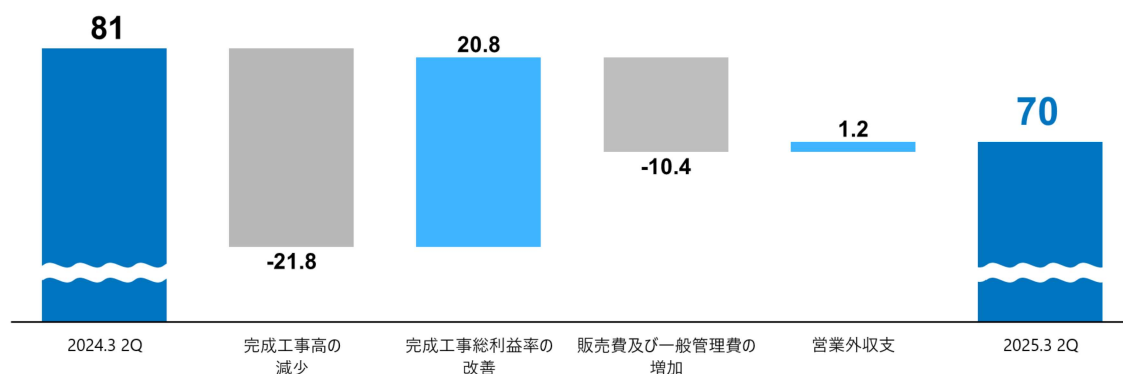
セグメントごとの要因につきましては、後ほど、管理本部長の中島よりご説明します。

また、当社の主要拠点の為替レートと、為替影響額についても記載しておりますので、ご参照ください。

主に完成工事高減により前年同期比で減少

■ 経常利益の主な増減要因(前年同期比)

(億円) ■ 増加
■ 減少
■ 合計



Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

8

当頁では、2025年3月期上期の経常利益の増減要因をお示ししております。

工事の採算性は改善しているものの、大型案件の剥落による完成工事高の減少および販管費増により、前年同期比で減少しております。

全ての項目で期初予想通りを見込む

■ 通期業績予想

(億円)	2024年3月期 実績			2025年3月期 予想		
	上期	下期	通期	上期実績	下期	通期
受注工事高	1,271	1,363	2,635	1,281	1,518	2,800
完成工事高	1,304	1,631	2,935	1,146	1,433	2,580
営業利益	74	108	182	62	77	140
経常利益	81	117	198	70	79	150
親会社株主に帰属 する中間純利益	66	89	156	56	45	102
ROE			11.6%			7.0%

■ 主要拠点の為替レート

(円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 想定
USDドル	140.55	147.00
タイバーツ	4.04	4.03
人民元	19.81	20.00
インドルピー	1.75	1.76

■ 為替変動による影響額

2025年3月期業績予想において、全為替レートが1%
変動した場合の影響額
完成工事高:12億円/経常利益:0.7億円

続いて、2025年3月期の通期の業績予想についてご説明します。

全ての項目で、上期の予想を上回りましたが、通期業績予想については据え置くこととしました。

セグメントごとの要因につきましては、後ほど、管理本部長の中島よりご説明します。

また、当社の主要拠点の想定為替レートと、為替変動による影響額についても記載しておりますので、ご参照ください。

私からのご説明は以上です。

目次

INDEX

1. 2025年3月期通期受注工事高の予想修正	P.03
2. 連結業績の概要	P.05
3. セグメント別業績の概要	P.10
4. 連結財務諸表	P.24
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて	P.28
6. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	P.30
7. 株主還元	P.42
8. Appendix	P.45

管理本部長：中島 靖

管理本部長の中島です。

当頁からは、セグメント別業績の概要についてご説明します。

環境システム事業は増加、塗装システム事業は減少

(億円)	2024年3月期 2Q実績	2025年3月期 2Q実績	前年同期比 増減	2025年3月期 2Q予想※	予想比 差異
受注工事高合計	1,271	1,281	9	1,180	101
うち国内	702	656	-46	646	10
うち海外	569	625	56	534	91
環境システム事業	733	833	99	830	3
ビル空調	177	183	6	230	-46
産業空調	556	649	92	600	49
塗装システム事業	537	448	-89	350	98

※ 第1四半期決算時に修正

Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

11

ここからは、2025年3月期第2四半期の事業別の業績についてご説明します。

当頁は、事業別の受注工事高を前年同期比および予想比でまとめています。

全社では、塗装システム事業で減少したものの、環境システム事業は増加し、前年同期比9億円の増加で1,281億円となりました。

予想比においては、環境システム事業と塗装システム事業の両事業において、第1四半期決算時に修正した予想を上回りました。

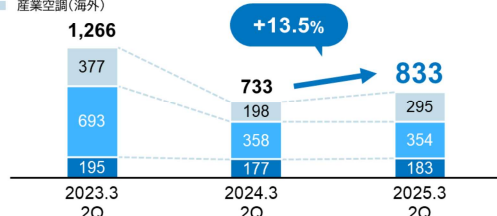
次頁から、事業ごとに順番にご説明します。

産業空調の海外がけん引し、前年同期比で増加

(億円)	2024年3月期 2Q実績	2025年3月期 2Q実績	前年同期比 増減	2025年3月期 2Q予想	予想比 差異
環境システム事業 受注工事高	733	833	99	830	3
ビル空調	177	183	6	230	-46
産業空調	556	649	92	600	49
うち国内	358	354	-4	330	24
うち海外	198	295	97	270	25
海外比率	27.0%	35.4%	8.4pt	32.5%	2.9pt

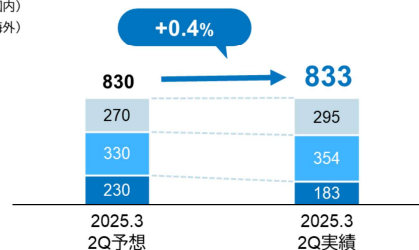
■ 受注工事高 推移

(億円) ■ ビル空調
■ 産業空調(国内)
■ 産業空調(海外)



■ 受注工事高 予想比

(億円) ■ ビル空調
■ 産業空調(国内)
■ 産業空調(海外)



Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

12

当頁は、環境システム事業の受注工事高を前年同期比および予想比でまとめています。

前年同期比においては、99億円増の833億円となりました。

産業空調分野の海外において、主に電気・電子分野の受注が好調に推移し、増加しました。

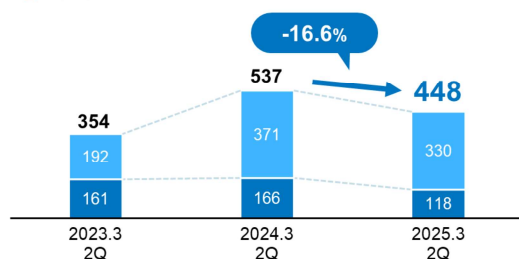
予想比においては、ビル空調分野の下振れを産業空調分野でカバーし、期初想定通りとなりました。

国内、海外ともに前年同期比で減少

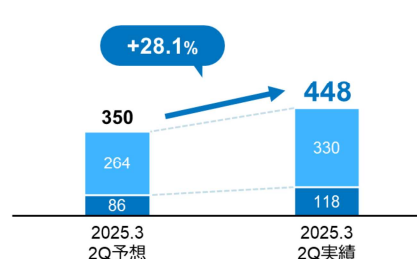
(億円)	2024年3月期 2Q実績	2025年3月期 2Q実績	前年同期比 増減	2025年3月期 2Q予想※	予想比 差異
塗装システム事業 受注工事高	537	448	-89	350	98
うち国内	166	118	-48	86	32
うち海外	371	330	-40	264	66
海外比率	69.0%	73.7%	4.7pt	75.4%	-1.7pt

※ 第1四半期決算時に修正

■ 受注工事高 推移

(億円) ■ 塗装(国内)
■ 塗装(海外)

■ 受注工事高 予想比

(億円) ■ 塗装(国内)
■ 塗装(海外)

Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

13

当頁は、塗装システム事業の受注工事高を前年同期比および予想比でまとめています。

前年同期比においては、89億円減の448億円となりました。

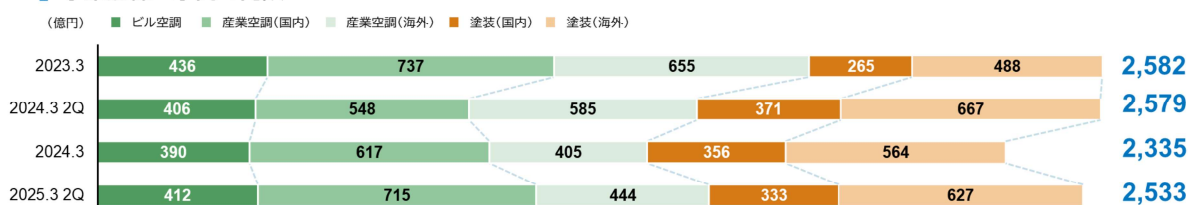
国内、海外ともに前年同期に自動車メーカーによる大型案件があったことによる反動減により、減少しました。

予想比においては、自動車メーカーの更新需要などを着実に取り込み、第1四半期決算時に修正した予想を上回りました。

全社の繰越工事量は大型案件竣工前の水準に回復

(億円)	2023年3月期通期 A	2024年3月期2Q B	2024年3月期通期 C	2025年3月期2Q D	増減 C-A	増減 D-B
受注工事高	2,886	1,271	2,635	1,281	-251	9
完成工事高	2,147	1,304	2,935	1,146	787	-157
繰越工事高	2,582	2,579	2,335	2,533	-247	-46
環境システム事業	1,828	1,540	1,414	1,572	-414	31
ビル空調	436	406	390	412	-45	5
産業空調	1,392	1,134	1,023	1,159	-369	25
塗装システム事業	754	1,038	921	961	167	-77

事業別繰越工事高の内訳



Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

14

当頁は、事業別の繰越工事高の推移をまとめています。

2024年3月期は、塗装システム事業において増加したものの、環境システム事業では大型案件の竣工があったことにより減少し、2,335億円となりました。

2025年3月期上期は、環境システム事業、塗装システム事業ともに、期初から手持ち案件が積みあがっており、2,533億円となりました。

全社の繰越工事量は、大型案件の竣工前の水準に戻しております。

環境システム事業は減少、塗装システム事業は増加

(億円)	2024年3月期 2Q実績	2025年3月期 2Q実績	前年同期比 増減	2025年3月期 2Q予想	予想比 差異
完成工事高合計	1,304	1,146	-157	1,100	46
うち国内	814	559	-254	517*	42*
うち海外	489	586	96	583*	3*
環境システム事業	1,039	697	-342	720	-22
ビル空調	206	162	-44	140	22
産業空調	832	535	-297	580	-44
塗装システム事業	264	448	184	380	68
経常利益合計	81	70	-10	49	21
経常利益率	6.2%	6.2%	-0.0pt	4.5%	1.7pt
環境システム事業	75	42	-32	42	0
経常利益率	7.3%	6.1%	-1.1pt	5.8%	0.3pt
塗装システム事業	0	19	18	1	18
経常利益率	0.2%	4.3%	4.1pt	0.3%	4.1pt

※ 上期完成工事高の予想比において、国内で増加しているが、期初予想において、国内で見込むべき案件約50億円を海外で見込んでいたため、実質的には海外で大きく予想を上回った。

Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

15

当頁は、事業別の完成工事高と経常利益を前年同期比および予想比でまとめています。

完成工事高において、塗装システム事業で増加したものの、環境システム事業は減少し、全社では前年同期比157億円の減少で1,146億円となりました。

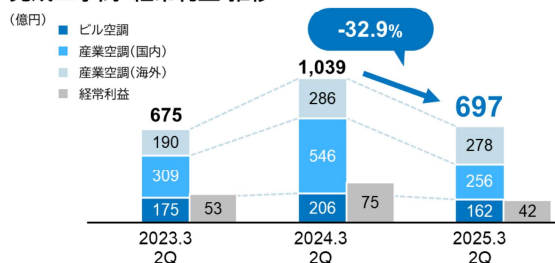
経常利益においても、塗装システム事業で増加したものの、環境システム事業は減少し、全社では前年同期比10億円の減少で70億円となりました。予想比においては、完成工事高、経常利益ともに塗装システム事業で想定を上回ったことにより、全社では、期初予想を上回りました。

次頁から、事業ごとに順番にご説明します。

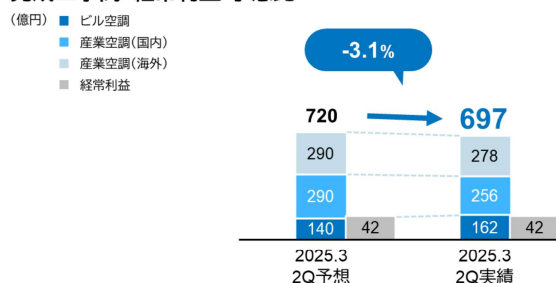
大型案件の剥落により減収減益

(億円)	2024年3月期 2Q実績	2025年3月期 2Q実績	前年同期比 増減	2025年3月期 2Q予想	予想比 差異
環境システム事業 完成工事高	1,039	697	-342	720	-22
ビル空調	206	162	-44	140	22
産業空調	832	535	-297	580	-44
うち国内	546	256	-290	290	-33
うち海外	286	278	-7	290	-11
海外比率	27.5%	40.0%	12.4pt	40.3%	-0.3pt
環境システム事業 経常利益	75	42	-32	42	0
経常利益率	7.3%	6.1%	-1.1pt	5.8%	0.3pt

完成工事高・経常利益 推移



完成工事高・経常利益 予想比



Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

16

当頁は、環境システム事業の完成工事高と経常利益を前年同期比および予想比でまとめています。

まず、完成工事高は、前年同期比342億円減の697億円となりました。ビル空調分野では、2023年3月期、2024年3月期と2期続けて受注量を調整してきたことで、手持ち案件が少なかったことにより減少しました。産業空調分野では、主に国内の大型案件の剥落により減少しました。次に経常利益は、完成工事高の大幅な減少に伴い、前年同期比32億円減の42億円となりました。

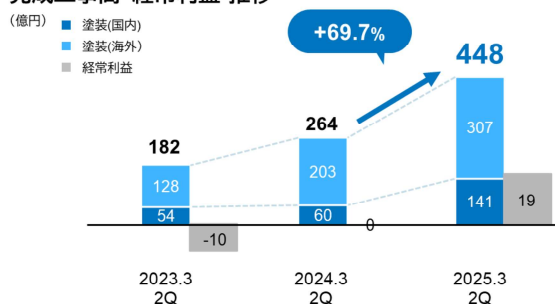
予想比においては、産業空調分野で工事量が期初の想定を下回ったことによる完成工事高の減少があったものの、経常利益は期初予想の水準を維持しました。

国内海外ともに増加し、増収増益

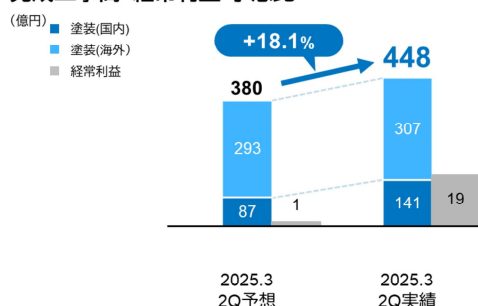
(億円)	2024年3月期 2Q実績	2025年3月期 2Q実績	前年同期比 増減	2025年3月期 2Q予想	予想比 差異
塗装システム事業 完成工事高	264	448	184	380	68
うち国内	60	141	80	87※	54※
うち海外	203	307	104	293※	14※
海外比率	77.0%	68.6%	-8.4pt	77.1%	-8.5%
塗装システム事業 経常利益	0	19	18	1	18
経常利益率	0.2%	4.3%	4.1pt	0.3%	4.1pt

※ 上期完成工事高の予想比において、国内で大きく増加しているが、期初予想において、国内で見込むべき案件約50億円を海外で見込んでいたため、実質的には海外で大きく予想を上回った。

完成工事高・経常利益 推移



完成工事高・経常利益 予想比



Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

17

当頁は、塗装システム事業の完成工事高と経常利益を前年同期比および予想比でまとめています。

まず、完成工事高は、前年同期比184億円増の448億円となりました。国内、海外ともに、前期に比べ期初の繰越工事高が多く、増加しました。

次に経常利益は、完成工事高の増加により、前年同期比18億円増の19億円となりました。

予想比においても、繰越工事の想定以上の進捗による完成工事高増に加え、国内において利益改善が進み、予想を上回りました。

なお、上期完成工事高の予想比において、54億円と国内で大きく増加していますが、期初予想において、国内で見込むべき案件約50億円を海外で見込んでいたため、実質的には海外で大きく予想を上回っております。

環境システム事業は増加、塗装システム事業は減少を見込む

(億円)	2024年3月期 実績			2025年3月期 新予想			2025年3月期 期初予想	予想比 差異
	上期	下期	通期	上期実績	下期	通期	通期	通期
受注工事高合計	1,271	1,363	2,635	1,281	1,518	2,800	2,800	-
うち国内	702	781	1,484	656	941	1,598	1,548	50
うち海外	569	581	1,151	625	576	1,202	1,252	-50
環境システム事業	733	985	1,719	833	1,166	2,000	2,000	-
ビル空調	177	184	362	183	192	376	376	-
産業空調	556	800	1,356	649	974	1,624	1,624	-
塗装システム事業	537	378	916	448	351	800	800	-

Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

18

ここからは、2025年3月期の業績予想を事業別にご説明します。

当頁は、事業別の受注工事高を前期実績および、2024年11月11日に開示した新予想と期初予想でまとめています。

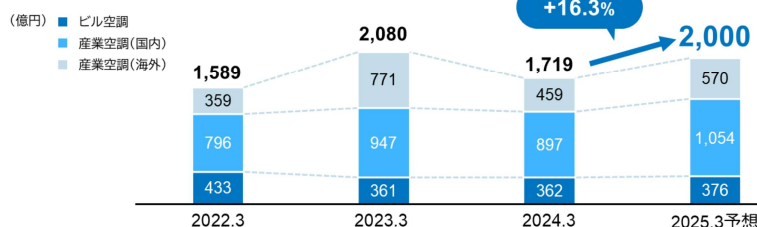
全社では、塗装システム事業で減少するものの、環境システム事業で増加し、前期比164億円の増加で2,800億円となる見通しです。

次頁から、事業ごとに順番にご説明します。

期初想定通りの受注を見込む

(億円)	2024年3月期 実績			2025年3月期 予想		
	上期	下期	通期	上期実績	下期	通期
環境システム事業 受注工事高	733	985	1,719	833	1,166	2,000
ビル空調	177	184	362	183	192	376
産業空調	556	800	1,356	649	974	1,624
うち国内	358	539	897	354	699	1,054
うち海外	198	260	459	295	274	570
海外比率	27.0%	26.5%	26.7%	35.4%	23.5%	28.5%

■ 受注工事高 推移



Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

19

当頁は、環境システム事業の受注工事高を前期比でまとめています。

市場環境の見通しについてご説明しますと、ビル空調分野の建設需要は、底堅く推移すると考えております。

産業空調分野では、電気電子分野において、AI・半導体・EVバッテリー等の需要拡大により、引き続き設備投資が継続すると予想しており、海外においても、同様の傾向が継続すると見込んでおります。

市場環境は引き続き良好であり、環境システム事業の受注工事高は、期初予想通りの2,000億円となる見通しです。

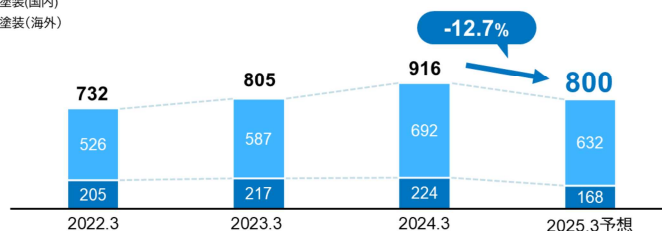
受注工事高の推移でお示ししております通り、2期前の過去最高の受注工事高である2,080億に近い水準であります。

期初想定通りの受注を見込む

(億円)	2024年3月期 実績			2025年3月期 新予想			2025年3月期 期初予想 通期	予想比 差異 通期
	上期	下期	通期	上期実績	下期	通期		
塗装システム事業 受注工事高	537	378	916	448	351	800	800	-
うち国内	166	57	224	118	49	168	118	50
うち海外	371	321	692	330	301	632	682	-50
海外比率	69.0%	84.8%	75.5%	73.7%	85.8%	79.0%	85.3%	-6.3%

■ 受注工事高 推移

(億円) ■ 塗装(国内)
■ 塗装(海外)



Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

20

当頁は、塗装システム事業の受注工事高を前期実績および、新予想と期初予想でまとめています。

市場環境の見通しについてご説明しますと、自動車メーカーに関しては、欧米・日本などでは設備更新投資、インドなどでは増産投資が見込まれており、需要は底堅く推移すると想定しております。

さきほどご説明の通り、塗装システム事業の受注工事高は上期の予想を大きく上回りましたが、足元では案件の出件時期が流動的になっていることを考慮し、通期業績予想については据え置いております。

なお、前期比では116億円減となりますが、受注工事高の推移でお示ししております通り、3期連続で800億円を超える水準を維持する見込みです。

環境システム事業は減収減益、塗装システム事業は増収増益を見込む

(億円)	2024年3月期 実績			2025年3月期 予想		
	上期	下期	通期	上期実績	下期	通期
完成工事高合計	1,304	1,631	2,935	1,146	1,433	2,580
うち国内	814	743	1,557	559	813	1,373
うち海外	489	888	1,377	586	620	1,207
環境システム事業	1,039	1,125	2,165	697	992	1,690
ビル空調	206	200	407	162	217	380
産業空調	832	924	1,757	535	774	1,310
塗装システム事業	264	505	770	448	441	890
経常利益合計	81	117	198	70	79	150
経常利益率	6.2%	7.2%	6.8%	6.2%	5.5%	5.8%
環境システム事業	75	94	170	42	64	107
経常利益率	7.3%	8.4%	7.9%	6.1%	6.5%	6.3%
塗装システム事業	0	27	28	19	19	39
経常利益率	0.2%	5.4%	3.6%	4.3%	4.4%	4.4%

Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

21

当頁は、事業別の完成工事高と経常利益を前期比でまとめています。

完成工事高は、塗装システム事業で増加するものの、環境システム事業で減少し、全社では前期比355億円の減少で2,580億円となる見通しです。

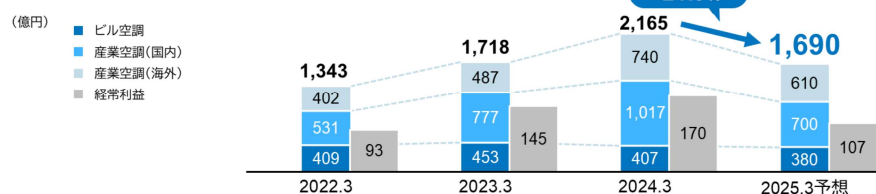
経常利益においても同様に、塗装システム事業で増加するものの、環境システム事業で減少し、全社では前期比48億円の減少で150億円となる見通しです。

次頁から、事業ごとに順番にご説明します。

大型案件の剥落により減収減益を見込む 原価低減活動により利益改善を進める

(億円)	2024年3月期 実績			2025年3月期 予想		
	上期	下期	通期	上期実績	下期	通期
環境システム事業 完成工事高	1,039	1,125	2,165	697	992	1,690
ビル空調	206	200	407	162	217	380
産業空調	832	924	1,757	535	774	1,310
うち国内	546	470	1,017	256	443	700
うち海外	286	453	740	278	331	610
海外比率	27.5%	40.3%	34.2%	40.0%	33.4%	36.1%
環境システム事業 経常利益	75	94	170	42	64	107
経常利益率	7.3%	8.4%	7.9%	6.1%	6.5%	6.3%

完成工事高・経常利益 推移



Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

22

当頁は、環境システム事業の完成工事高と経常利益を前期比でまとめています。

まず、完成工事高は、前期比475億円減で期初予想通りの1,690億円となる見通しです。

ビル空調分野では、2023年3月期、2024年3月期と2期続けて受注量を調整してきたことで、2025年3月期の手持ち案件が少ないことにより、減少する見通しです。

産業空調分野は、国内、海外ともに大型案件の剥落により減少する見通しです。

次に経常利益に関しては、各プロジェクトの採算性は改善傾向にあるものの、完成工事高の大幅な減少に伴い、前期比63億円減で期初予想通りの107億円となる見通しです。

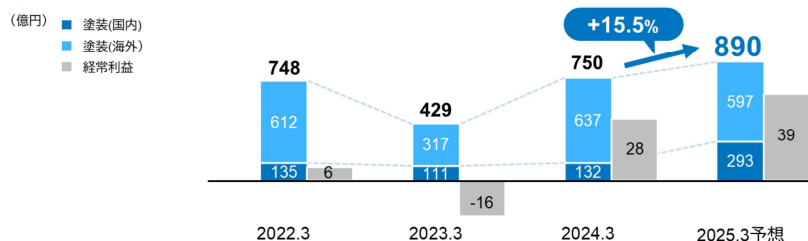
さらなる原価低減活動により利益改善を進められるよう、引き続き努力を継続してまいります。

2期連続で増収増益を見込む

(億円)	2024年3月期 実績			2025年3月期 予想		
	上期	下期	通期	上期実績	下期	通期
塗装システム事業 完成工事高	264	505	770	448	441	890
うち国内	60	71	132	141	151※	293※
うち海外	203	434	637	307	289※	597※
海外比率	77.0%	85.8%	82.8%	68.6%	65.5%	67.1%
塗装システム事業 経常利益	0	27	28	19	19	39
経常利益率	0.2%	5.4%	3.6%	4.3%	4.4%	4.4%

※ 通期業績予想値において、上期完成工事高の予想と同様に、国内で見込むべき案件約50億円を海外で見込んでいたため、予想値を補正。

■ 完成工事高・経常利益 推移



Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

23

当頁は、塗装システム事業の完成工事高と経常利益を前期比でまとめています。

まず、完成工事高は、通期業績予想において、上期完成工事高の予想と同様に、国内で見込むべき案件約50億円を海外で見込んでいたため、予想値を補正しております。

なお、塗装システム事業全体としては、前期比119億円増で期初予想通りの890億円となる見通しです。

次に経常利益は、さきほどご説明の通り上期の予想を上回りましたが、国内の手持ち案件の採算性の改善は、当初の想定範囲内であることから、通期業績予想については据え置いており、前期比10億円増の39億円となる見通しです。

完成工事高・経常利益の推移でお示ししております通り、2023年3月期で底を打ち、2期連続で増収増益の見通しです。

目次

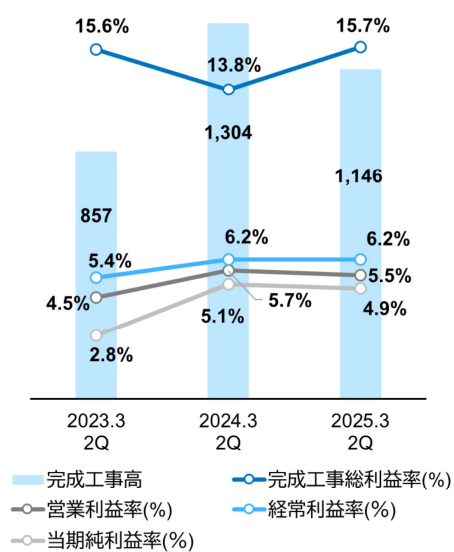
INDEX

1. 2025年3月期通期受注工事高の予想修正	P.03
2. 連結業績の概要	P.05
3. セグメント別業績の概要	P.10
4. 連結財務諸表	P.24
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて	P.28
6. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	P.30
7. 株主還元	P.42
8. Appendix	P.45

管理本部長：中島 靖

当頁からは、連結財務諸表を順番にお示しします。

(億円)	2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	2025年3月期 2Q
完成工事高	857	1,304	1,146
完成工事総利益	134	180	179
完成工事総利益率	15.6%	13.8%	15.7%
営業利益	38	74	62
営業利益率	4.5%	5.7%	5.5%
経常利益	46	81	70
経常利益率	5.4%	6.2%	6.2%
親会社株主に帰属する 中間純利益	24	66	56
当期純利益率	2.8%	5.1%	4.9%



当頁は、3ヶ年の業績の推移を表しています。ご参照ください。

貸借対照表

(億円)	科目	2024年 3月期	2025年 3月期2Q	増減
	流動資産	2,033	1,784	-249
	現金預金	554	451	-102
	受取手形・完成工事未収入金等	1,253	1,121	-132
	有価証券	90	-	-90
	未成工事支出金及び材料貯蔵品	33	38	4
	その他	112	182	70
	貸倒引当金	-10	-9	0
	固定資産	631	600	-30
	有形固定資産	116	131	14
	のれん	35	32	-3
	その他無形固定資産	24	22	-1
	投資有価証券	308	265	-43
	繰延税金資産	8	7	-1
	その他	144	145	1
	貸倒引当金	-7	-3	3
	資産合計	2,664	2,384	-279

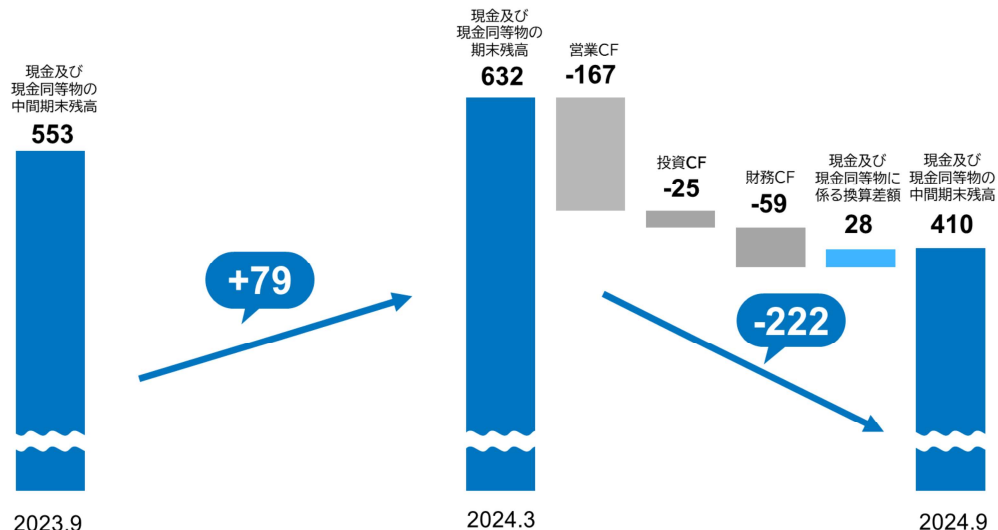
科目	2024年 3月期	2025年 3月期2Q	増減
流動負債	1,035	739	-295
支払手形・工事未払金等	648	385	-262
未成工事受入金	138	169	30
工事損失引当金	3	2	-0
その他	243	181	-62
固定負債	114	119	5
負債合計	1,149	858	-290
純資産	1,515	1,526	10
資本金	64	64	-
資本剰余金	36	37	1
利益剰余金	1,118	1,148	30
自己株式	-29	-49	-20
その他有価証券評価差額金	143	119	-24
繰延ヘッジ損益	-0	-0	0
為替換算調整勘定	77	100	23
退職給付に係る調整累計額	29	28	-1
非支配株主持分	75	76	1
負債純資産合計	2,664	2,384	-279

当頁は、連結の貸借対照表です。ご参照ください。

営業CF: 売上債権の減少により増加したものの、仕入債務の減少でマイナス
財務CF: 配当金の支払い、自己株式の取得によりマイナス

■ 現金及び現金同等物の期末残高推移

(億円)



当頁は、連結のキャッシュフロー計算書です。

2025年3月期第2四半期の現金及び現金同等物の四半期末残高は、2024年3月期末より222億円減少し、410億円となりました。

営業キャッシュフローは、売上債権の減少により増加したものの、仕入債務の減少により、167億円のマイナスとなりました。

目次

INDEX

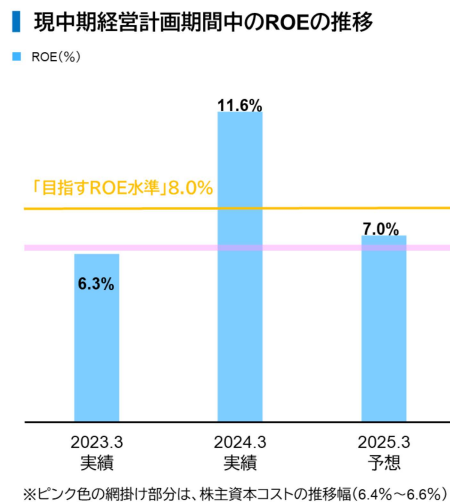
1. 2025年3月期通期受注工事高の予想修正	P.03
2. 連結業績の概要	P.05
3. セグメント別業績の概要	P.10
4. 連結財務諸表	P.24
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて	経営企画本部長: 中川 正徳 P.28
6. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	P.30
7. 株主還元	P.42
8. Appendix	P.45

経営企画本部長の中川です。

ここからは、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み状況と、中期経営計画の進捗をご説明します。

2026年3月期より始まる次期中期経営計画に向けて、 資本効率を意識した経営のさらなる深化を図る

現状分析	- ROEを重要な経営指標として設定。2025年3月期のROEは、7.0%を見込む - 株主資本コストをCAPM理論を用いて算出。現中期経営計画期間中は、6.4%～6.6%で推移 - ROEは、コロナ禍の時期を除き、株主資本コストを上回る水準 - ただし、当社の算定する株主資本コストは、投資者の期待する最低水準と捉え、市場との認識のすり合わせが必要であるという認識 2024年3月期のPBRは1倍を超え、現在も1倍以上の水準を維持。今後も1倍以上の維持と、さらなる資本効率の向上の必要性を認識	
	2023年3月期～2025年3月期の現中期経営計画において、「目指すROE水準」として8.0%を設定 - 次期中期経営計画に向けてさらなる向上を検討	
取組み	経営指標	事業ごとの資本収益性を図る経営指標(ROIC)を導入し、運用を開始。
	経営資源の適切な配分	- M&Aなどの事業投資に関して資本コストを加味した可否判断の仕組みを導入 - 現中期経営計画のキャッシュアロケーション方針に基づき成長投資(200億円)と株主還元を推進 - 政策保有株式の縮減(対純資産比率20%未満に削減) - 事業ポートフォリオの見直し、キャッシュアロケーションなど資本効率の改善に向けた方針を策定中
	株主還元	- 安定的な配当を実施(DOE3.2%水準) - 資本効率の向上と機動的な財務政策の実現を目的として、自己株式取得・消却を弾力的に実施(年間20億円を目標)
	IR活動	- 投資家との積極的な対話と経営へのフィードバックの継続的な実施 - IR施策の充実を図り、投資家とのエンゲージメント強化
	持続的な成長	2024年2月、社外取締役を委員長とするサステナビリティ委員会を設置。カーボンニュートラルや人的資本・多様性に関する取り組みを推進 - 非財務情報の開示の強化



当頁は、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた当社の取り組み状況について記載しております。

当社取締役会においては、資本コストや株価を意識した経営の実現に向け、当社の資本コストとともに、資本効率を測る指標として、自己資本利益率(ROE)や事業毎の投下資本利益率(ROIC)を適切に把握し、全社として目指すROE水準(8%)の達成に向けた取り組みを行っております。また、個別の事業投資案件につきましても執行の組織である事業投資委員会等を通じて資本コストを加味した可否判断の仕組みを導入しております。

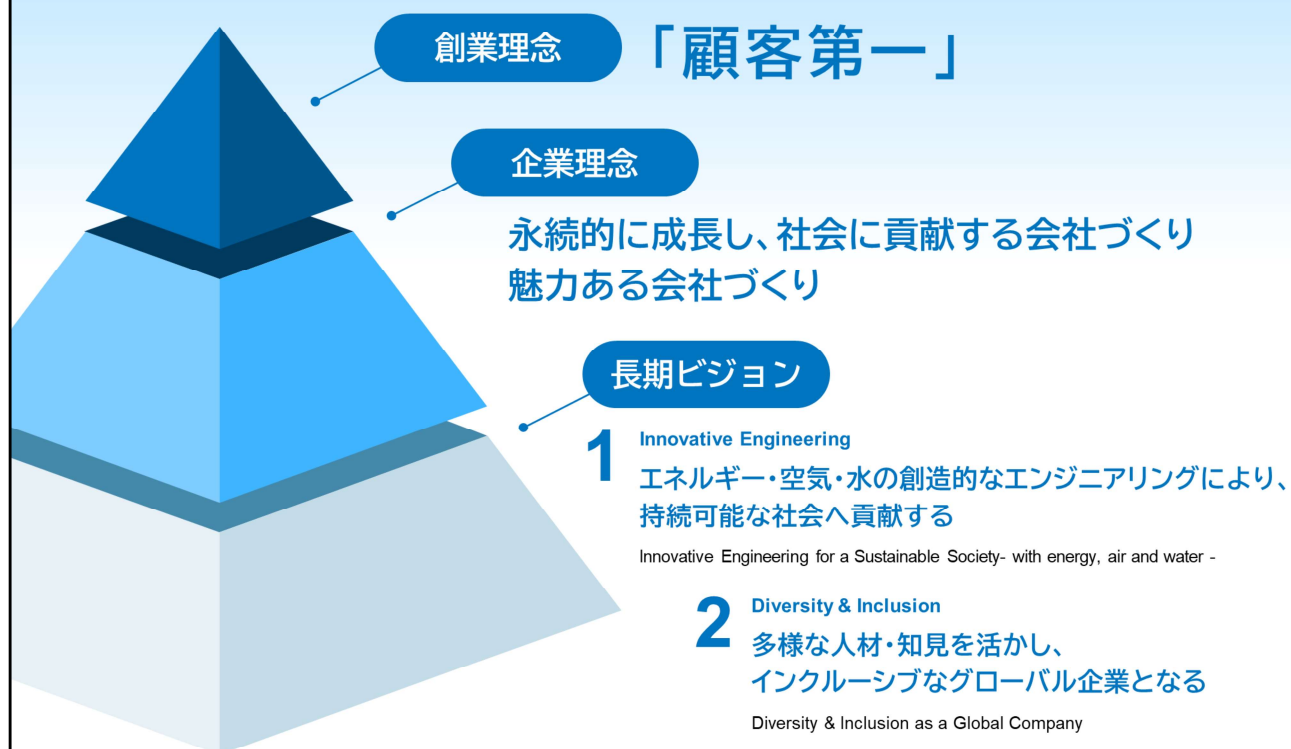
現在、事業ポートフォリオの見直しや経営資源の最適配分(キャッシュフローアロケーション)などの資本効率に関する改善に向けた方針や目標のさらなる向上等を検討しており、次期中期経営計画の策定を通じて開示を予定しております

目次

INDEX

1. 2025年3月期通期受注工事高の予想修正	P.03
2. 連結業績の概要	P.05
3. セグメント別業績の概要	P.10
4. 連結財務諸表	P.24
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて	P.28
6. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	経営企画本部長: 中川 正徳 P.30
7. 株主還元	P.42
8. Appendix	P.45

ここからは、中期経営計画の進捗をご説明します。



当頁は、本中計の策定にあたり見直した長期ビジョンを記載しております。

Innovative Engineering と Diversity & Inclusionという二つのビジョンを掲げております。

中期経営計画最終年度の利益目標は達成見込み
目指すROE水準8%に向けて利益改善を推進

	中期経営計画期間				5年後の目指す姿
(億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	2025年3月期 目標	2027年3月期 目標
受注工事高	2,886	2,635	2,800	2,360	2,700
完成工事高	2,147	2,935	2,580	2,380	2,650
経常利益	130	198	150	150	165
親会社株主に帰属する当期純利益	79	156	102	96	
ROE	6.3%	11.6%	7.0%	7.2%	
DOE	3.2%	3.2%	3.2%を目指し、安定的な配当を実施		
自己株式取得	30	20	年間20億円を目途に実施		
政策保有株式の保有額対純資産比	21.8%	22.0%	2025年3月期までに、20%未満に削減		

※「目標」は2022年6月16日開示の中期経営計画の数値目標

Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

32

当頁は、本中計の財務目標について記載しております。

2025年3月期の業績予想に関しましては、全ての項目で中計で掲げていた目標を達成する見通しです。

ただし、ROEに関してましては、当期純利益が当初目標の96億円を上回る102億円となる見込みですが、中計目標策定時の為替や投資有価証券の評価額等の要因により自己資本が当初想定より上振れることにより、7%に留まる見通しであります。引き続き、目指すROE水準8%を超えられるよう努力をしてまいります。

中期経営計画で掲げたGHG排出削減目標を再設定し、SBT※1認証取得を申請 サプライチェーン全体での排出削減を推進

※1 SBT: Science Based Targetsの略。「パリ協定」が求める水準と整合したGHG排出削減目標

非財務目標

事業活動に伴うCO₂排出量(スコープ1-3) ⇒

スコープ1・2: 2030年までに42%削減(2022年度比)

スコープ3: 2030年までに25%削減(2022年度比)

TCFD提言に基づく気候関連情報の開示 TCFD

ガバナンス

業務執行取締役の報酬体系について非財務指標を一定割合導入し、気候変動に対する活動の強化を後押しする方向で見直し

戦略/リスク管理

- 2035年において当社への影響度が高いリスクと機会を洗い出し
- リスクマネジメント委員会を設置し、気候変動を含む重大なリスクの低減と顕在化するリスクの最小化に努める

重要なリスク・機会	想定される対応策
炭素税	- GHG削減目標の設定 - 低炭素技術・システム開発 - 再生可能エネルギー業界への参入
顧客行動の変化 省エネ・再エネ技術の普及	- エネルギー循環システムの構築 - 塗装技術の改善・習得・商品開発推進 - CO₂回収・循環技術等の開発
平均気温の上昇	- 植物工場事業の多角展開 - 施工における機械化・自動化の推進 - 労働環境の整備・熱中症対策の推進

指標と目標

CO₂排出量について事業ごとに2050年・2030年の目標を設定

	環境システム事業	塗装システム事業
2050年削減目標※3	CO ₂ 排出量80%削減※2 (2013年度比)	将来のエネルギー変革を加味した技術で、自動車1台あたりCO ₂ 排出量を実質ゼロ化
2030年マイルストーン※3	CO ₂ 排出量25%削減※2 (2013年度比)	現状の塗装工程の熱源構成のまま、自動車のCO ₂ 排出量を60kg-CO ₂ /台まで削減
2022年度取り組み(実績)	建築物のライフサイクルを通じて、使用エネルギーを抑制するシステムを提案し、優れた「低炭素化」「環境負荷低減」技術を提供	塗装ラインのエネルギー試算モデルを活用し、設備の高効率化・小型化を図り、再生可能エネルギーや低温排熱改修システム等を導入

※2 当社の設計施工による設備の運用段階における削減目標
※3 SBT目標に合わせて削減目標の見直し中

当頁は、本中計の非財務目標について記載しております。ご参照ください。

2024年3月期は、合計52億円実施

	2025年3月期上期までの主な実施内容	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2025年3月期 計画
事業関連投資	- インドの連結子会社 Nicomac Taikisha Clean Rooms Private Limitedによる工場投資 2024年7月にドイツに連結子会社「Taikisha Deutschland GmbH」を設立	25億円	11億円	
設備・人材投資	- BIMを始めとする現場DX運用検証費用（構築中） - グローバルな基幹業務システムの構築費用（構築中）	6億円	9億円	107億円
技術開発投資	- 新・技術開発センター「TAIKISHA INNOVATION SITE Aikawa」を開設 - 塗装システム事業のカーボンニュートラル向け研究開発投資（開発中）	7億円	31億円	

中期経営計画期間 3か年合計

200億円

当頁は、本中計の投資計画について記載しております。

環境システム事業において、今年7月に、神奈川県愛川町に新・技術開発センター「TAIKISHA INNOVATION SITE Aikawa」を開設いたしました。

また、塗装システム事業においては、スプレー塗装に代わるドライ加飾技術の開発を急ピッチで進めておりまして、今月11月中をめどに、神奈川県座間市にありますテクニカルセンターにデモラインが完成予定です。

2つの施設に関しましては、後段で詳しくご説明いたします。

3年目の今期は、今申し上げました開発関連の投資に加え、ITDX・人材関連の投資、M&A等により200億円の投資を着実に実施してまいります。

基本方針	方向性	取組み
1 コア事業のさらなる強化 当社の強みである追求型の課題解決により継続的に付加価値を創出する	環境システム事業	付加価値を生み出し続ける事業展開
		技術の大気社を強化
		業務の仕組みの改善と生産性向上
	塗装システム事業	国内外での確固たる地位の確立
		グローバルな社会課題を意識した開発
		業務の仕組みの改善と生産性向上
2 新たな価値創出への挑戦 自社の技術と外部知見との融合によりイノベーションを生み出し、事業領域を拡大する	知的財産戦略の立案・推進	
	顧客視点の開発	
	オープンイノベーション	
	強みとなる技術の水平展開	グリーン機器事業 ・空調設備業と製造業の融合でニッチな分野の事業創造
		オートメーション事業 ・ロボット制御技術に注力し、自動サンディング装置などの非四輪市場を開拓
		植物工場事業 ・プラント建設と工場野菜の生産販売の積極的市場開拓により、ブランド確立へ
3 変革・成長を支える経営基盤の強化 事業構造の転換に向け、人的資本・デジタル戦略・ガバナンスに重点を置いて取り組む	新規事業の開拓	
	人的資本の育成・確保	
	新たな価値提供に向けたデジタル戦略	
	グループガバナンス体制強化	

当頁は、本中計の『基本方針と方向性・取組み内容』について記載しております。

新・技術開発センター「TAIKISHA INNOVATION SITE Aikawa」を開設

【開設の背景】

1991年に神奈川県愛川で開設された技術開発センターは、基礎研究から実証実験まで幅広く取り組んできました。お客様の課題と当社技術を融合し、「協創によるイノベーション」を実現するために、2019年度よりセンター内の改築を段階的に行ってきました。今回の「ADVANCED PLAZA」の竣工をもって、先行で完成していた「SOLUTION LAB」「TECHNICAL LAB」と一体になり、新たな研究施設TAIKISHA INNOVATION SITE Aikawa（以下TISA）としてスタートします。TISAは、「人と情報と技術が集まる」をコンセプトに、オープンイノベーションにより、AI技術を含む革新的な技術開発を推進し、お客さまや社会のニーズを先取りした価値創造を実現します。

ADVANCED PLAZA

人・技術・情報が出会い、集まり、協創することで、大気社の未来の技術が生まれる場所

SOLUTION LAB

リアルスケールで技術検証を行い、課題解決を行う場所

TECHNICAL LAB

残響室やフリーンルームなどを備えた、特殊環境で技術検証を行う場所

【今後の展望】

昨年4月、東京・新宿に、サテライト施設「TAIKISHA INNOVATION GATE Shinjuku」を開設しています。「人と情報と技術が集まる」というコンセプトのもと、国内外の拠点をつなげる多拠点同時会議の開催や、塗装システム部門のテクニカルセンター（神奈川県座間市）との連携の検討も進んでいます。今後はTISAでの開かれた活動を通じ、お客さまをはじめとするパートナーとの協創、部門や国を越えての情報発信が活性化し、イノベーションが生まれることを期待しています。



※ADVANCED PLAZAでは、CO₂排出量のネットゼロ化を目指し、太陽光集熱設備や直膨式輻射空調でエネルギーを削減。太陽光発電によりZEB（ネットゼロ・エネルギー・ビルディング）を達成し、評価機関から最高ランクの星を取得しています。

それでは、中計の各戦略に基づく取り組みのうち、2025年3月期の取り組みを2つ紹介いたします。

1つ目は、全社で掲げる『新たな価値創出への挑戦』における環境システム事業の取り組みとしまして、社会のニーズを先取りした新たな価値創造の拠点として、今年7月に新技術開発センター「TAIKISHA INNOVATION SITE Aikawa」を稼働いたしました。

今回竣工しました「ADVANCED PLAZA」では、太陽光発電および採熱システムなどの自社技術の確立により、ネットゼロ・エネルギー・ビルディング、いわゆるZEBの認証を取得しております。

昨年すでに開設しております新宿本社のサテライト施設「TAIKISHA INNOVATION GATE Shinjuku」や、塗装システム部門のテクニカルセンターとの連携を通じ、お客さまをはじめとするパートナーとの協創、部門や国を越えての情報発信の活性化により、イノベーションが生まれることを期待しています。

ドライ加飾システムのデモライン完成へ

～11月中をめどに稼働開始の予定 自動車メーカーの生産ラインへの早期採用を目指す～

当社はドライ加飾システムを組み込んだデモラインを神奈川県座間市にある同社のテクニカルセンターに設置し、11月中をめどに稼働を開始します。ドライ加飾技術は、従来のスプレー塗装(ウェット塗装)に代わり、フィルムを真空圧空成形技術によって貼り付けることで、自動車外装などをフィルム加飾(ドライ加飾)する技術です。自動車メーカー各社のCO₂排出削減目標や、生産工程の変革への対応を見据え、同技術の開発を進めてまいりました。

【デモライン設置の背景】

ドライ加飾技術に対する自動車メーカーの関心は非常に高まっています。本施設での自動車量産ラインを想定した各種検証の実施により、自動車メーカーによるドライ加飾システムの早期採用を目指しています。

【今後の展望】

本施設でのお客さまによるテストを通じ、製品化に向けた装置の精度向上や、お客さまの工場への導入に向けた運用・品質面の検証を進めます。また、本システムは自動車以外にも適応できる技術であるため、ドライ加飾が活用できる新たな製品への展開も検討しております。

今後も自動車外装などの付加価値提供技術となるドライ加飾の技術開発を通じ、脱炭素社会の実現に貢献していきます。



2つ目は、塗装システム事業の掲げる『グローバルな社会課題を意識した開発』における取り組みとしまして、ドライ加飾システムの開発についてです。

神奈川県座間市にある当社のテクニカルセンターで、ドライ加飾システムのデモラインが今月11月末に稼働を開始します。これにより、ドライ加飾システムの自動車メーカーの生産ラインへの早期採用を目指してまいります。

本施設でのお客さまによるテストを通じ、製品化に向けた装置の精度向上や、お客さまの工場への導入に向けた運用・品質面の検証を進めます。また、本システムは自動車以外にも適応できる技術であるため、ドライ加飾が活用できる新たな製品への展開も検討しております。

今後も自動車外装などの付加価値提供技術となるドライ加飾の技術開発を通じ、脱炭素社会の実現に貢献していきます。

基本方針	方向性	実績および進行中の主な取り組み	社会価値の創出					
			E 気候変動の緩和と適応	S 環境負荷低減への取り組み	S 汚染防止と人材育成	S 人材確保と人財育成	G 働きやすい職場環境の整備	G 実効性の高いガバナンス・コーポレート・パフォーマンス
「A」事業のさらなる強化	環境システム事業	付加価値を生み出し続ける事業展開	○	○				
		技術の大気社を強化		○	○			
		業務の仕組みの改善と生産性向上				○	○	
	塗装システム事業	国内外での確固たる地位の確立		○				
		グローバルな社会課題を意識した開発	○	○				
		業務の仕組みの改善と生産性向上				○	○	

Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

38

当頁からは、各戦略における2025年3月期上期の実績や進行中の主な取り組みについて記載しております。ご参照ください。

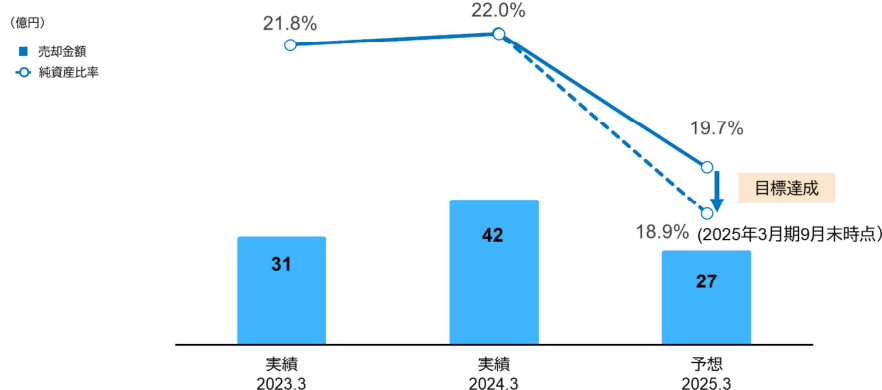
基本方針	方向性	実績および進行中の主な取り組み	社会価値の創出				
			E 気候変動の緩和と適応	S 汚染防止と環境負荷低減への取り組み	S 人材確保と人材育成	S 働きやすい職場環境の整備	G 実効性の高いカーボネート・ガバナンス
新たな価値創出への挑戦	知的財産戦略の立案・推進	- 自社知財の有用性の検証実施。他社知財の動向調査中。 - 環境システム事業、塗装システム事業、新規事業の各部門と連携して、知的財産戦略を立案・推進中。					
	顧客視点の開発	2024年7月に、新技術開発センター「TAIKISHA INNOVATION SITE Aikawa」(以下、TISA)の稼働開始。新宿本社にあるR&Dサテライト「TAIKISHA INNOVATION GATE Shinjuku」(以下、TIGS)との連携により、国内外の顧客に対して技術提案を実施中。	○	○			
	オープンイノベーション	「TISA」と「TIGS」との連携により、カーボンニュートラルなど環境貢献分野で顧客との協業推進中。 - 東京都立大学が取り組む、大気中のCO₂を直接回収する「ダイレクト・エア・キャプチャー(DAC)」の共同研究開発に参画中。DAC実験装置の製作を実施。	○	○			
	強みとなる技術の水平展開	グリーン機器事業 - 精密温調チャンバー※1の受注活動推進中。 ※1 半導体製造において装置まわりや、超精密加工や測定、検査を可能にする環境空間を構築する設備 - 排気処理装置のラインナップ拡充を実施中。 - 天井裏ダクト接続型の除菌システム「エアライザー」を開発。2026年販売開始を目標に量産化対応中。 2024年11月より、「FOLLOAS」※2の販売開始。 ※2 2023年開発。人の動きに追従して冷風を吹く吹出口システム	○	○			
		オートメーション事業 - 新規顧客獲得のための活動として、展示会を活用した活動を継続実施中。 - 高塗着効率技術の市場投入に向け、各種検証実施中。 - ドライ加飾技術の開発実施中、2024年11月中をめどに国内R&D施設に実証ラインを設置完了予定。開発課題を海外R&D拠点と共有することで、開発速度を加速中。	○	○			
		植物工場事業 自社工場にて実証実験継続中。市場開拓の戦略については継続検討中。	○	○			
	新規事業の開拓	大学、研究機関、民間企業と、市場調査に基づき、社会実装時のビジネスモデルを想定した新規事業に資する共同研究を実施中。	○	○			

基本方針	方向性	実績および進行中の主な取り組み	社会価値の創出				
			E	S	G		
変革・成長を支える経営基盤の強化	人材資本の育成確保	- 当事業の推進に合致する意欲・能力の高い人材の獲得(新卒採用90名、キャリア採用22名)。 - 経営職候補者育成プログラムの運用を開始し、CEOサクセッションプランにつながる執行役員への登用候補者の育成・教育を実施。 - 社内風土向上の一環として上司だけでなく、同僚や部下からの評価なども含めた360度フィードバック制度を一部開始。経営職候補者育成プログラム参加者に実施。 - グローバル事業拡大を担う人材の早期育成を目指す海外トレーニー制度の導入、2024年度より運用開始。 「健康経営優良法人(ホワイト500)」認定取得(総合順位451~500位)。 - 長時間労働対策として主に現場業務に従事する社員の実態把握と、課題および職場環境改善対策案を検討中。	気候変動の緩和と適応	汚染防止と環境負荷低減への取り組み	人材確保と人材育成	働きやすい職場環境の整備	実効性の高いガバナンス
	新たな価値提供に向けたデジタル戦略	- 設計・積算・施工管理などのプロジェクトにおける各工程の生産性向上のためのデジタル化・DX化を推進中。設備BIMの標準化と普及・推進に向けた「設備BIM研究連絡会」に参加し活動。 - グループ全体のコミュニケーション円滑化、ガバナンス強化のため共通基盤構築に着手(グローバルコミュニケーション基盤、ITセキュリティ対策など)。 - 業務効率化のためチャットボットの全社利用を開始し、生成AI構築に着手。 - DX推進を目的としたデジタル人材育成教育を実施、全社員向けITリテラシー教育を検討中。 - グループ全体の経営情報を一元管理し予測・シミュレーションを可能とするグローバル経営基盤を構築中。					
	グループガバナンス体制強化	- 事業ごとの資本収益性を図る経営指標を導入し、運用を開始。 - 事業ポートフォリオの見直し、キャッシュアロケーションなど資本効率の改善に向けた方針を策定中。 - M&Aなどの事業投資に関して資本コストを加味した可否判断の仕組みを導入。 - 関係会社取締役会の役割・責任範囲を明確にし、実効性向上のための諸施策をPDCAサイクルで実施。同取締役会の機能強化を行うとともに、本社によるモニタリング体制強化を実施中。					

2024年9月末時点の純資産比率は、18.9% 本中計期間中の目標達成

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期		
実績/予想	実績		上期実績	通期予想	合計
売却金額	31億円	42億円	27億円	27億円	100億円
純資産比率	21.8%	22.0%	18.9%	19.7%	
中期経営計画(参考)					
売却金額	42億円	34億円	-	24億円	100億円
純資産比率	20.7%	17.7%	-	15.6%	

政策保有株式 実績・予想推移



Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

41

当頁は、本中計の政策保有株式の削減計画について記載しております。

2025年3月期上期における売却金額の実績は27億円となりました。それにより、2024年9月末時点の純資産比率は、18.9%となり、対純資産比率20%未滿に削減の目標を達成しております。引き続き株価の状況に応じて削減してまいります。

目次

INDEX

1. 2025年3月期通期受注工事高の予想修正	P.03
2. 連結業績の概要	P.05
3. セグメント別業績の概要	P.10
4. 連結財務諸表	P.24
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現 に向けて	P.28
6. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	P.30
7. 株主還元	P.42
8. Appendix	P.45

経営企画本部長：中川 正徳

次に、当社の株主還元についてご説明します。

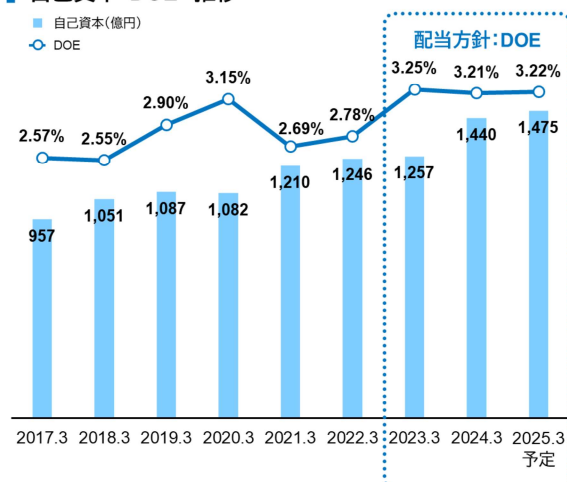
中期経営計画期間は予定通り増配を見込む

【配当方針】 連結自己資本配当率 (DOE) 3.2%を目指し、安定的な配当を実施

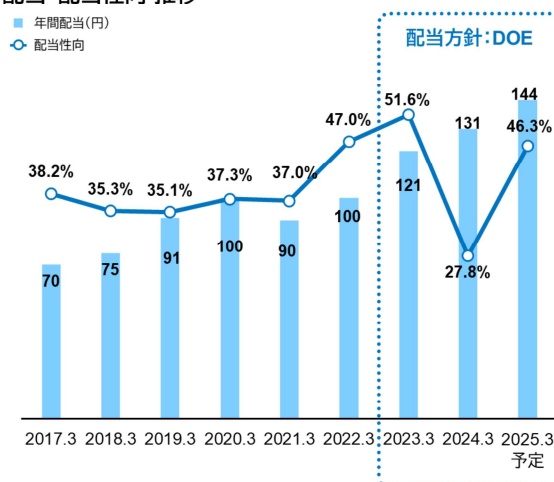
$$\text{DOE } 3.2\% = \text{目指すべきROE水準 } 8.0\% \times \text{配当性向 } 40\%$$

2025年3月期年間配当金は、144円に増配予定

自己資本・DOE 推移



配当・配当性向 推移



Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

43

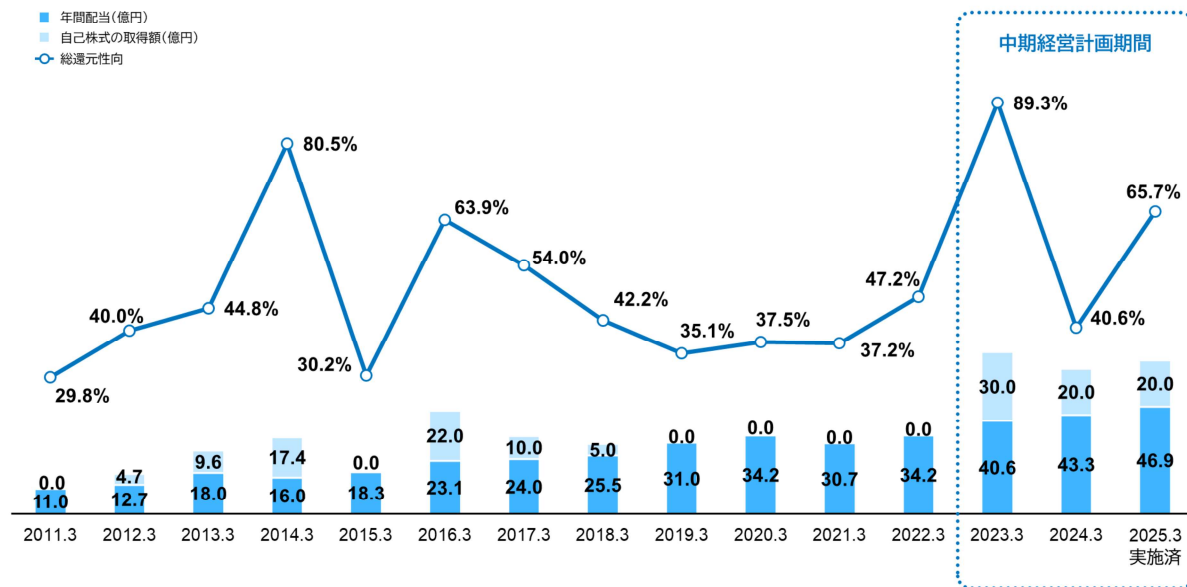
当頁では、配当についてご説明します。

過去の配当方針につきましては、配当性向による目標を掲げておりましたが、2023年3月期から始まった中計においては、利益配当金による利益還元を最重要施策のひとつとして、自己資本配当率 (DOE) 3.2%を目指し、安定的な配当を実施しております。2025年3月期の年間配当は、期初公表の配当予定金額から変更はなく、1株につき144円で実施する予定です。

配当と自己株式取得を合わせて、高い水準を維持

【自己株式取得の方針】 資本効率の向上と機動的な財務政策の実現を目的として、自己株式の取得を年間20億円を目途に実施(2025年3月期20億円実施済)

株主還元額・総還元性向 推移



当頁では、自己株式の取得についてご説明します。

薄いブルーの棒グラフが自己株式の取得額の推移を示しております。

中計1年目の2023年3月期は、30億円、2年目は20億円、3年目の今期は20億円の自己株取得を実施しました。

配当と自己株式の取得を合わせて、より高い水準の株主還元を目指してまいります。

ご参考として株主還元額と総還元性向の推移も載せておりますので、ご参照ください。

本日のご説明は以上となります。ご清聴いただき、ありがとうございました。

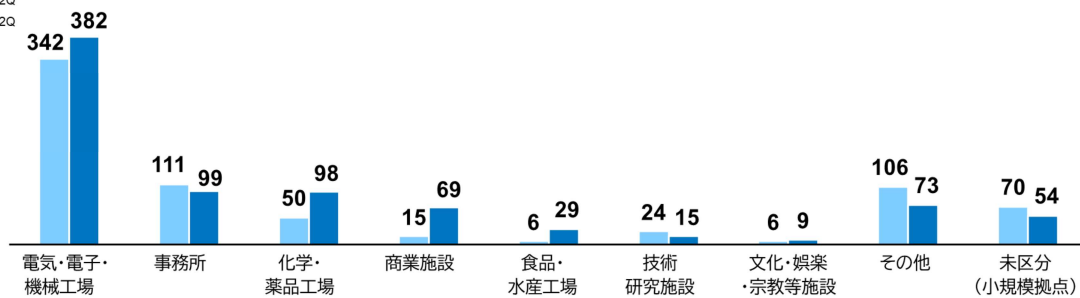
目次

INDEX

1. 2025年3月期通期受注工事高の予想修正	P.03
2. 連結業績の概要	P.05
3. セグメント別業績の概要	P.10
4. 連結財務諸表	P.24
5. 資本コストや株価を意識した経営の実現 に向けて	P.28
6. 中期経営計画の進捗 (2022年度～2024年度)	P.30
7. 株主還元	P.42
8. Appendix	P.45

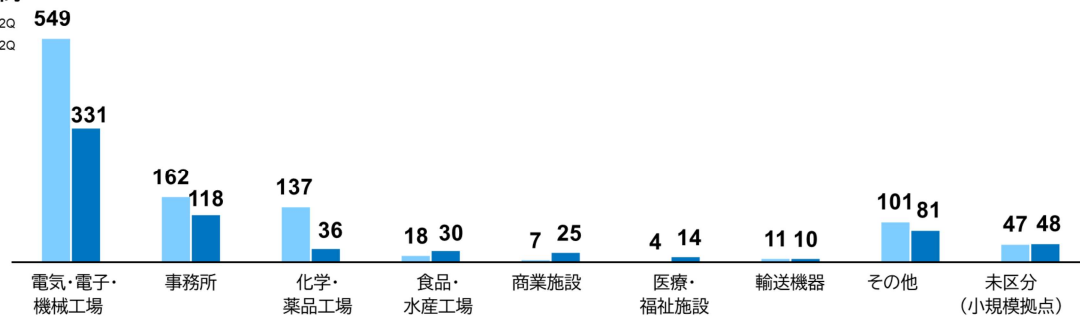
■ 受注工事高

(億円) ■ 2024.3 2Q
■ 2025.3 2Q



■ 完成工事高

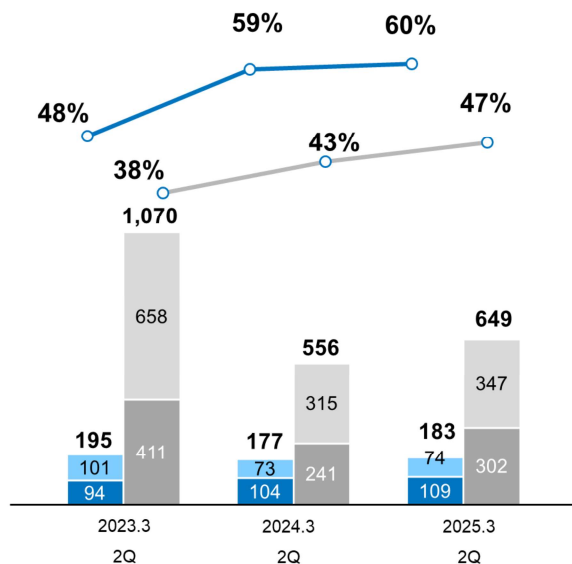
(億円) ■ 2024.3 2Q
■ 2025.3 2Q



受注工事高

(億円)

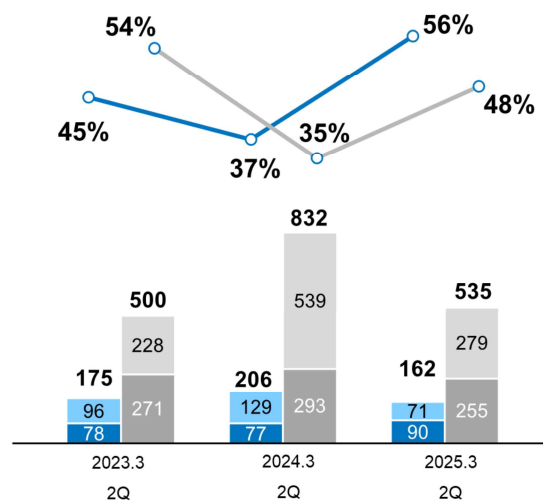
- ビル空調(リニューアル)
- ビル空調(新築)
- ビル空調リニューアル比率
- 産業空調(リニューアル)
- 産業空調(新築)
- 産業空調リニューアル比率



完成工事高

(億円)

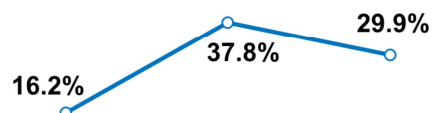
- ビル空調(リニューアル)
- ビル空調(新築)
- ビル空調リニューアル比率
- 産業空調(リニューアル)
- 産業空調(新築)
- 産業空調リニューアル比率



■ 受注工事高

(億円)

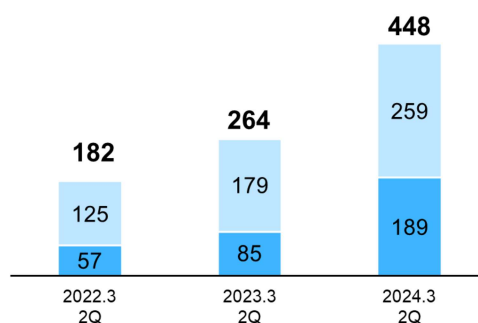
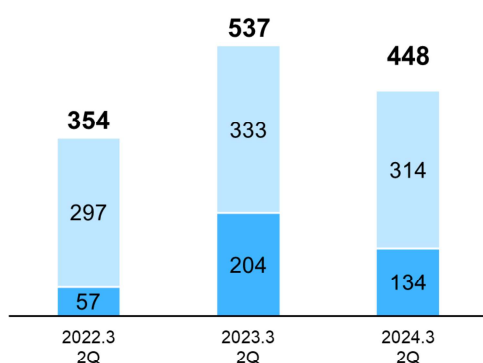
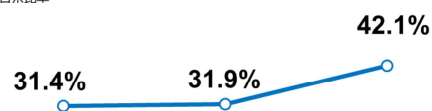
■ 日系
■ 非日系
○ 非日系比率



■ 完成工事高

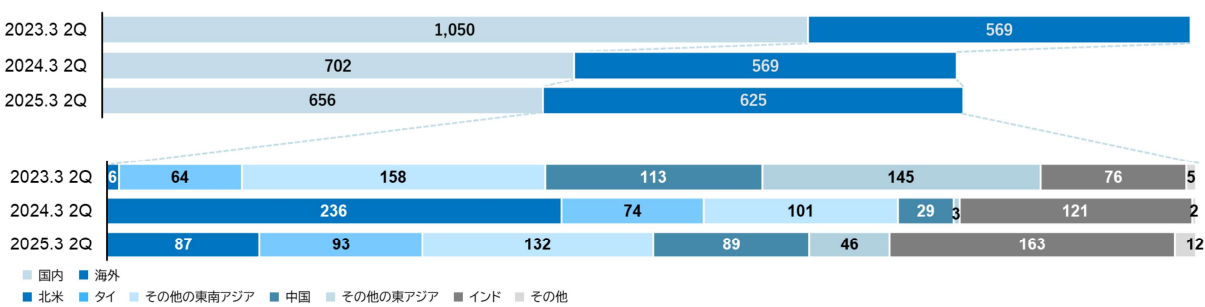
(億円)

■ 日系
■ 非日系
○ 非日系比率

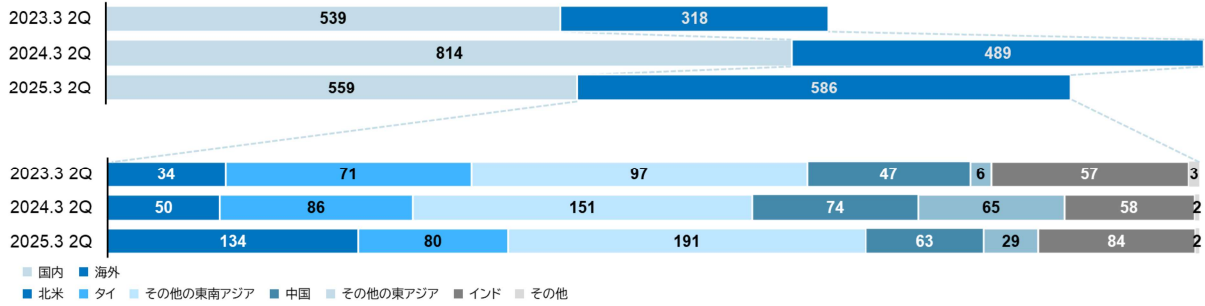


※ 日系メーカーの集計値には、海外日系合弁会社(日系メーカー出資会社の全てを含む)の受注・完工を含む

受注工事高



完成工事高

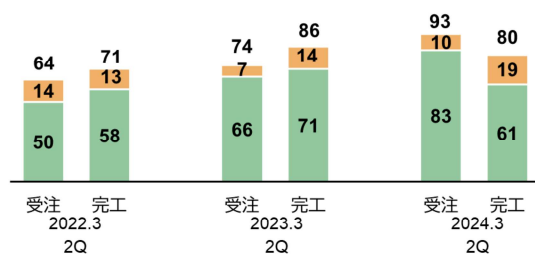


※当セグメントデータは、外部顧客への受注・完成工事高のみの数値
※主な国または地域 ・東南アジア:シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、他 ・東アジア:台湾、韓国 ・北米:アメリカ、カナダ、メキシコ ・その他地域:ロシア、南米、他

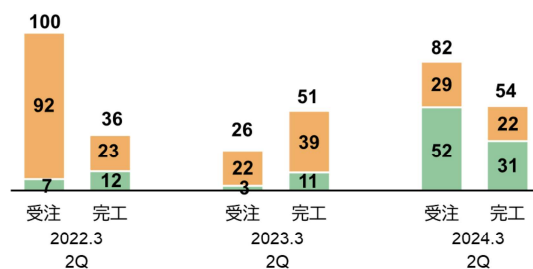
海外主要4社の受注・完成工事高の推移

(億円) ■ 産業空調 ■ 塗装システム

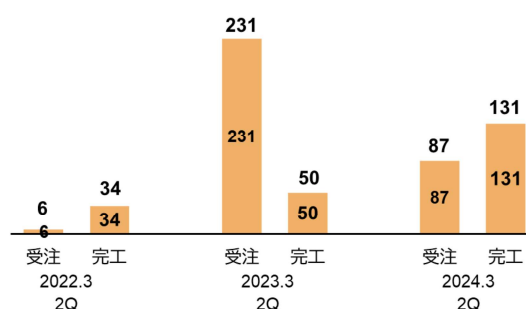
Taikisha (Thailand) Co., Ltd. (タイ)グループ



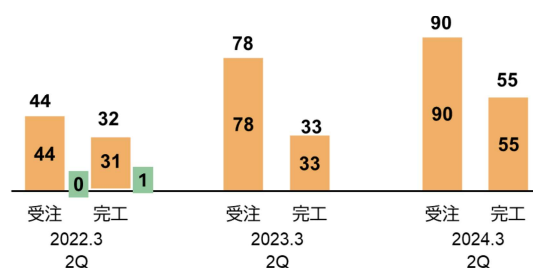
Wu-Zhou Taikisha Engineering Co., Ltd. (中国)



Taikisha USA, Inc. (米国)グループ



Taikisha Engineering India Private Ltd. (インド)



※ 大気社とグループ会社間の内部取引額を除いた金額
Copyright 2024 Taikisha Ltd., All Rights Reserved.

将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関するお問合せ先

株式会社大気社 経営企画本部 経営企画部 IR課

TEL:03-5338-5052 FAX:03-5338-5195